

**質の高い臨床教育・研究の確保事業  
取組の概要と推進委員会からの主なコメント**

		整理番号	8
代 表 校 名 ( 連 携 校 名 )	名古屋大学		
事 業 名	スペシャリストの継続的育成によるサステナブルな臨床教育・研究力の強化事業		
事 業 責 任 者	医学部長・医学系研究科長 木村 宏		
<b>事 業 の 概 要</b>			
<p>本学ではこれまで、教育専任教員を配置し臨床研究教育学講座を設置して臨床教育・研究の充実化を推進してきた。それらを活用し、臨床教育については、①Workplace-based FD (WBF) による実施可能な医行為の提案、②離職を検討している看護師をシミュレーションスペシャリストとして育成、③臨床実習中の基本的臨床技能実習の拡充、④シミュレーション教育動画教材の作成、⑤教学 IR の充実化による学生の医行為経験状況の可視化と評価、により診療参加型臨床実習の充実を図る。また臨床研究については、①各研究者が立案した臨床研究への伴走型支援の充実、②臨床研究教育コンテンツの作成と提供、③臨床研究に関わる医師が一定期間臨床研究支援を On the Job training で学び、そのノウハウを各診療科へ還元することで、循環・成長する臨床研究支援体制を構築することにより、質の高い臨床研究の確保を確立する。</p>			
<b>推進委員会からの主なコメント</b> ○：優れた点等、●：改善を要する点等			
<p>○申請大学の現状分析による課題抽出（未実施医行為調査等）と本事業で進展可能な既存取組の分析を十分行った上で、大学教員が教育と研究を効率的に行う目的を明確にした複数の先進的な取組とその全体構想が優れている。</p> <p>○申請大学の既存取組の強みである各診療科に対する教育専任教員による WBF の強化は診療科個別の実情を踏まえた実践を可能とする効果的な取組で先進性も高い。</p> <p>○看護師を対象にシミュレーションスペシャリストを養成し、医学生のシミュレーション教育を展開する点は、新規性が高いという点で評価できる。</p> <p>○各診療科の若手研究者（大学院生）を一定期間 CRE 配属とし、他研究者の研究計画書指導や委員会出席、セミナー講師等の OJT を通じて養成を行い、修了者が各診療科に戻って指導的立場を発揮するという循環型モデルの構築は新規性・先進性ともに非常に優れており、確実な研究実力を修得できる人材育成手法としても高く評価できる。</p> <p>○伴走型支援の実施件数、セミナーの実施回数、臨床研究スペシャリストの養成数について、具体的な数値達成目標を提示している点は評価できる。</p> <p>●臨床教育、臨床研究とも広範な取組であり、そのための人材等の確保や進捗管理が重要である。</p> <p>●メディカル xR センター、IR 委員会、キャリア形成支援センター、看護部など多彩な部署による連携体制が必要となるため、臨床教育・臨床研究共通の運営委員会で委員長がリーダーシップを発揮し、事業推進のための方向性がしっかりと検討されていくことを期待したい。</p> <p>●達成目標としての臨床研究スペシャリストの養成数が 2 名/年となっているが、事業 2～3 年目には可能であれば年間 4～5 名の養成数を目指していただくことに期待したい。</p> <p>●臨床実習と臨床研究それぞれ別に外部評価委員会を設置し、既に委員長や構成員人数まで想定がされており、実効性の観点からも非常に優れているが、教育を受ける学生および指導医（特に各診療科の医師）からのアンケート等による評価も実施することが望ましい。</p>			